



今日は、運動会に次いで欠席者数が少ない一日でした。明日は、気温が低いようで、プールには入れないかもしれませんが、3・4年生のプール開きは行います。気温が上がれば、来週から本格的に水泳授業が始まります。健康管理をお願いします。

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目

命を守るためのプール学習が始まりました

今日の4校時目は6年生、5校時目は5年生が、令和6年度の「プール開き」を行いました。今年も、昨年のような急な暑さにはならず、5月後半になっても湿度が低く、日によっては朝夕長袖が必要になることもありました。運動会当日も、日差しはとても強い中でしたが、風が吹き、爽やかな一日となりました。

そしていよいよ今日のプール開き初日、徐々に気温が上がり、水泳指導の水温・気温の規定に適合したことを確認し、プール開き&水泳実技を行いました。



プール開きでは、お互いの命を何より大切に、安全に水泳の授業ができるよう次のような話をしました。

○ バディのパートナーは、お互いの命を預かって

いるということなので、バディ確認の際には、必ず、すぐに手をつなげるように活動する

- 水泳の授業は、万が一の水難事故等の際、水の中に投げ出された時に、慌てず、落ち着いて、できるだけ長い時間、水の上に浮いていられる知識と技能を身に付け、なにより水と仲良くなるのが一番のねらい
- 水泳授業は、1学期で終了するので、健康管理をしっかりして、できるだけ、プールに入る回数を多くする

残念ながら今日も、見学者が多くいました。体調が本当に悪い場合は仕方ありませんが、「苦手だから・嫌いだから・面倒くさいから等」の理由からか？という児童も見られます。大切な命を守るためのせっかくの水泳授業ですので、ご家庭でも「甘え」「わがまま」をしっかりと見極め、厳しめにご指導ください。

不登校問題を解く

臨床心理士 海野 和夫(福島市)

家族の変容で再登校

不登校に直面した親や家族は、最初なぜかと思いきや、登校を促す。子供は泣き、時には暴れ、やがて無視し、どこでも動かなくなる。でも親や家族の変容がそれを乗り越える。

①夫婦だけの会話による親密さの再構築、健康な家族の出現

きょうだい3人、小学5年の男の第2子が不登校になった。親はわが子を不登校にした責任を感じて反省し、対策を話し合った。毎日必ず30分以上、夫婦2人だけで語り合うことにした。また夕食を一緒に食べ、だんらんの時間も確保した。頭をなでた。すると子供たちがおうれしそうに親に近づいてきた。夕食後3人そろって勉強する習慣が

た。目がさくらさくら、正直、穏やかなど、子供たちの心根の良さを書き続けた。父親も参加し、素直にわが子を褒められるようになった。子供は自分の良さを言い聞かされ続け、成長の笑顔が増えた。再登校した。

③父親の統制力(リーダシップ)、一家そろっての共同作業、家族の変容

3人姉弟の中学生2人が不登校になった。両親

でその理由を考えた。家族は一見仲良しそうに見えるが、家の中に決まりがなく、めいめい自分勝手に生活しているのに気づいた。父親が命じ毎週日曜日に祖父母を含め一家7人、家内外の掃除に取り組むことにした。父親は率先して働いた。当

初拒否から2カ月、子供も参加した。父親の統制力が家族に浸透し、協調性と分かち合いの場が増えた。家族の有りようが変容した。子供2人は再登校した。

このような事例は数多くある。「健康な家族はある時は親密、ある時は離れる」(鈴木浩二)。不登校問題の解決に限らず、心地よい人生は健康な家族から生まれる。(毎週木曜日掲載)

今日の福島民報にこんな特集記事がありました。

不登校は様々な要因が複雑に絡み合っているとは思いますが、カギとなるものが3つ書いてあります。「健康な家族」「黒字ノート」「父親の統制力」。子どもたちの心の基地・拠り所となる家庭・家族が子どもの心のエネルギーの源であるということです。26号で紹介した「加点法」=「黒字ノート」ですね。